【無痛分娩】　麻酔説明文書・同意書

患 者 ID：
患者氏名：　　様

はじめに

この医療行為について説明を受け、わからないことがある場合は担当医、看護師、薬剤師にご質問ください。医療行為の内容やメリット、デメリットついてよく理解された上で、納得してお受けください。

1.　医療行為名称

無痛分娩（硬膜外麻酔）

2.　医療行為の内容と有効性

無痛分娩を受ける場合は『麻酔』が必要です。当院では、背中および腰からの麻酔（硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔）などを十分な麻酔のトレーニングを受けた産婦人科あるいは麻酔を専門とする麻酔科メンバーが担当いたします※。

※　麻酔科メンバーとは：日本麻酔学会認定の麻酔科指導医、麻酔科専門医（今後は専門医機構認定の麻酔科専門医になります）を中心に麻酔科専門医を目指す麻酔科専攻医が修練をしており彼らを含めてグループで麻酔管理を行っています。

１）無痛分娩とは麻酔を使用する分娩方法で、「痛みが無くなる」という結果ではなく、プロセスを表した言葉です。**無痛分娩は、分娩全ての痛みを取り除くのではなく、最低限の痛みに抑えるものです。**麻酔の効き方には個人差があります。代表的な麻酔法は硬膜外麻酔です。ただし、麻酔効果が不確実な場合や急を要する場合には、脊髄くも膜下麻酔を併用することがあります。

２）当院における無痛分娩は、麻酔科医のサポートにより産科（分娩）チームで対応しております。当院では**計画分娩**での無痛分娩であるため、緊急時には無痛分娩を中断、終了することになります。また、硬膜外カテーテルの挿入は、平日 9 時から 17 時に実施いたします。カテーテル挿入後の麻酔薬の投与は常時可能ですが、カテーテルの入れ替えは 24 時間体制ではありません。時間帯によってはご希望に添えない場合もありますのでご了承ください。

３）麻酔の種類

【硬膜外麻酔】

無痛分娩において、最も代表的な麻酔法です。脊柱（背骨）の骨の隙間から針を挿入し、硬膜外腔というところに直径 1 ㎜以下のカテーテル（管）を留置します。このカテーテル（管）から麻酔薬を入れることにより分娩の痛みを軽減します。麻酔開始後約 30 分で痛みが抑えられてきます。麻酔効果が不確実な場合には、このカテーテル（管）を入れ替えることがあります。

【脊髄くも膜下麻酔】

腰のところにある脊柱の隙間から針を刺してくも膜下腔というところに麻酔薬を入れます。硬膜外麻酔よりもやや強い麻酔になります。1 回だけの薬剤注入になりますので長時間の鎮痛には向きません。このため、ほとんどの場合で硬膜外麻酔と併用します。

3.　医療行為実施後の経過

硬膜外カテーテルを挿入後、血圧や呼吸、赤ちゃんの元気さを見ながら数回に分けてカテーテルに麻酔薬を入れていきます。その後は定期的に痛みの場所、強さを確認しながら、麻酔薬を追加していきます。麻酔薬の追加で十分な鎮痛が得られない場合は、硬膜外カテーテルの入れ替えを行います。

4.　医療行為に伴う危険性、合併症・偶発症等の有無

無痛分娩も一般的な医療行為と同様にメリットとデメリットがあります。副作用、合併症に対しては、臨機応変に対応いたします。以下にそれぞれを説明いたします。

【無痛分娩のメリット】

１）陣痛の軽減により落ち着いて分娩に臨むことができます。

２）分娩のダメージが少なく、産後の回復が早くなることが多いです。

【無痛分娩のデメリット】

１）副作用

●血圧の低下

●かゆみ

●体温上昇

●産後の創部痛を強く感じる

２）合併症

●頭痛（0.5%）

●尿閉（自力で排尿できない状態）（1%）

●硬膜外血腫による下肢の麻痺（10～15 万に 1 人）

●原因不明の神経障害
●局所麻酔薬中毒：多弁、興奮、耳鳴り、味覚障害、重篤な場合は痙攣、意識障害、
不整脈、呼吸停止、心停止（非常にまれ）
●全脊髄くも膜下麻酔：下肢の運動麻痺、呼吸停止、心不全（非常にまれ）
３）麻酔の分娩への影響
副作用や合併症といったデメリットとは別に、麻酔の分娩に及ぼす影響には以下のものがあります。
●陣痛促進剤使用の増加（50～80％）
●分娩時間の延長（特に初産の場合）
●鉗子分娩・吸引分娩の増加（10％）
●帝王切開率への影響はありません
●胎児への悪影響はありません

万が一合併症や偶発症等が生た場合の治療費用についても保険診療による患者負担の範囲内でお支払いいただきます。

5.　当該医療行為を行うことに同意しない権利・同意を撤回する権利があること

以上の説明を受けられた後、この医療行為を希望されない場合には遠慮なく担当医にご相談ください。医療行為を受けるかどうかについて決めるのは患者さんご本人であり、選択はあなたの自由です。

この医療行為に同意した後に気持ちが変わった場合には、いつでも同意を撤回することができます。医療行為を途中で中止したくなった場合なども担当医にご相談ください。このような場合、中止したことで今後の診療に不利益を被ることはありません。

6.　その他

１）食事について

分娩進行中は、母体合併症が出現したり赤ちゃんの具合が悪くなった場合など、緊急で帝王切開が必要になる場合があります。もし食事をされていると帝王切開施行時の麻酔危険度が高くなってしまいます。そのため、朝食以降は、飲水のみ（水、ミルクの入ってないお茶、プロテインの入ってないスポーツドリンク、OS-1 は可）に限定します。

２）既往歴の申し出

いままでに経験した、あるいは現在も治療中の病気は必ずお知らせください。とくに、麻酔や手術の経験は忘れずにお申し出ください。

３）異常反応出現例および年間の全体的麻酔統計については、個人を特定できる情報を除いた臨床データを関連学会に届け出ております。

無痛分娩　麻酔同意書

患者 ID：

患者氏名：　　様

1.　医療行為（手術・処置・検査）名称

無痛分娩

☐ 硬膜外麻酔　部位（胸部、腰部）

☐ 脊髄くも膜下麻酔

2.　医療行為実施日

年　　月　　日

3.　説明内容

（１）医療行為名称

（２）医療行為の内容と有効性

（３）医療行為実施後の経過

（４）医療行為に伴う危険性、合併症・偶発症等の有無

（５）当該医療行為を行うことに、同意しない権利・同意を撤回する権利があること

（６）その他

4.　署名欄

上記の医療行為について私が説明しました。

説　明　年　月　日：　　年　　月　　日

説　明　者　氏　名：　　（署名）　　（職種）

説 明 補 助 者 氏 名：　　（署名）　　（職種）

：　　（署名）　　（職種）

上記の医療行為について担当医から説明を受け、理解し、納得しましたので、その実施に同意します。

同　意　年　月　日：　　年　　月　　日

患 者 本 人 氏 名：　　（署名）

家族（又は代理人）氏名：　　（署名）　　（続柄）

やむを得ず、患者・家族（又は代理人）が署名できない場合、その理由を記載してください。

〔　　〕

5.　問合せ先

〒 162-8655　東京都新宿区戸山 1-21-1
国立研究開発法人　国立国際医療研究センター病院
麻酔科　　電話：03-3202-7181（代表）